

令和4年度第2回神戸市歯科口腔保健推進懇話会 議事要旨

1. 日 時：令和4年11月18日(金) 14:00～15:30
2. 場 所：中央区文化センター 11階 1103・1104 会議室 (WEB 併用)
3. 参加者：天野会長
足立委員・伊藤委員・高橋委員・田中委員・田守委員・土居委員・西尾委員・百瀬委員・安田委員
谷池委員 (WEB)・堀本委員 (WEB)
河内委員代理 (橋本委員) 西口委員代理 (成田委員)・吉田委員代理 (西委員) いずれも 50 音順
欠席：大辻委員
4. 内 容：
議題1 (仮称)「こうべ歯と口の健康づくりプラン (第3次)」案について
事務局より説明

検討会会長である足立委員より第2回検討会 (令和4年11月16日) での意見の報告

第1章 計画の基本

p. 1 意見なし

第2章 神戸市の歯科口腔保健対策の重点項目

p. 2 (1) 中学生・高校生の歯肉炎

「中学校・高校生においては、歯や口の健康についての関心が希薄であり、日常の口腔ケア等への実践が十分でない。」というのは、どういうことか。わからない。
(事務局) 小学生に比べて家族の介入がなく、関心が希薄である。

(2) 妊娠期・壮年期

最近の妊婦は働いており、妊婦歯科健診は受けづらい。
産後にも歯科健診が受けられるようにするべきだ。

p. 4 口腔機能について なし

p. 5 健康格差

健康格差は経済格差など、様々な要因があるが、何か取り組みができるのか？自己責任に
していないか？何か考えているのか？

(事務局) 誰もが健康になれるまち「健康創造都市K O B E」をめざしている。歯周病予防
はセルフケアが必要なため難しいが、むし歯予防は科学的根拠があるフッ化物利用を推進
して学校で環境づくりをすることが可能である。自己責任にしないことが重要。

第3章 ライフステージに着目した施策の展開

1. すべてのライフステージにおける取り組み

p. 6 (1) かかりつけ歯科医をもち定期的に受診する

かかりつけ歯科医の定義は？

かかりつけ歯科医を持っているだけで受診しなかったら意味がない。

かかりつけ歯科医を持っていると、どんな効果があるのか、健康寿命にかかわること
など記載した方が良いのでは？

p. 7 (3) フッ化物を利用する

学校健診では、全体的にむし歯は減っているが、2 極化している。

神戸市内 9 区あり、むし歯の多い地域では、家庭では予防を実践できない。その子どもたちを積み残さないようにするべきである。新潟県では、昔から小学校でのフッ化物洗口を行っている。その子どもたちを追跡した調査結果では、洗口をしていた子どもたちが、大人になってもむし歯予防の効果が持続していることがわかっている。

現在、神戸市内の小学校でフッ化物洗口のモデル事業をしているが、学校現場の多忙化や時間がないなど言われている。今後、どういう展開をしていくか、詳しく示してほしい。

p. 8 (5) たばこを吸わない

中高生など未成年が、たばこを吸い始めないよう「防煙教育」も盛り込むべきでは？

p. 9 ライフステージごとの取り組み

若年期では、主な取り組みが何もない。今後どうするのか？

第 4 章 分野別にみた施策の展開

p. 10 1. 障がい者への歯科保健医療対策

こうべ市歯科センターと西市民病院との連携について、普通の病診連携ではなく、緊急時の後送病院であるので「患者急変時の対応」など具体的な対応についてはっきり明記してほしい。

2. 地域包括ケアに向けた取り組み

多職種連携の取り組みをすすめることについて、どんな職種に対して、具体的に記載が必要ではないか

4. がん対策（口腔がん）

市内 1 か所で口腔がん検診を実施しているが、早期発見には至らず、啓発活動と位置付けているのかと思う。

本当に早期発見するためには、地域の歯科医師の先生方に協力頂いて、拡げていけたらと思う。

6. 災害時における歯科保健医療対策

救護所設置のタイミングや取り組み内容も記載するべき。

第 5 章 計画の指標

意見なし

以上、検討会長である足立委員からの報告

各委員からの意見

委員：

- ・予算のこともあると思うが、冊子のままだよかった。
- ・若年期の健診事業が行われていない。高校卒業から40歳までが空白である。プランの中にも実現に向けて努力するといった意味を含めて、この年代における健診を行うという一文を入れてもらいたい。20代30代でアプローチするのは重要。
- ・フッ化物応用については、小学校でモデル事業をしているが、もっと発展させて拡大させていく必要がある。具体的にもっと拡大していく施策についても言及してほしい。

委員：

P13（第5章 計画の目標）

「フッ化物洗口を実施する施設数、人数の増加」「学齢期の歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少」目標値の再考をして、目標を高めにかかげて頑張っていく姿勢をみせてほしい。

委員：

P9（第3章 ライフステージに着目した施策の展開 表）

「関係機関の取り組み」にある「歯科医師や医師は」だけの書きぶりに何か意図はあるのか。

P3（歯周病と全身疾患の関係について）

市では、重症化予防の取り組みを独自でされているかと思うが、歯科だけの取り組みではなく、他の事業計画だとか他の事業の展開の中で、歯科のことも取り入れてもらって、歯周病と全身疾患の関係について、推奨度もAと上がったので、もっと踏み込んだ取り組みを強化してほしい。

P12（第4章 分野別にみた施策の展開 6. 災害時における歯科保健医療対策）

震災関連死という表現があるが、内閣府は平成31年に災害関連死と定義づけている。記載の仕方を広くとらえる必要があるのではないか。兵庫県は単独条例を作ったが、その中で、歯科衛生士会は、発生時だけでなく、中長期的な取り組みについても必要になってくると思っている。その辺りも入れてもらえたらと思っている。

委員：

異論なし。

糖尿病と歯周病について、災害について、周術期について、医師会としても協力したい

委員：

薬局で、フレイルチェックを実施している中で、口の中の話もしているので、かかりつけ歯科医の概念のところ、痛くなっていくところではなく、定期的に行くところというアナウンスはしている。患者さんが手に取ってみられるもの書き加えてもらえるといいと思う。薬剤師会としてできることはしていきたい。

現在、たまたまフッ素塗布モデル校の和田岬小学校の学校薬剤師をしており、6年生の「くすりの教室」という授業をさせてもらっているが、禁煙の話はさせてもらえない。禁煙とお口の関係はすごくあると思っているが、親が喫煙しているということもあって、学校では、禁煙の話もさせてもらえないジレンマがある。その辺りも含めて考えてもらえればと思う。

委員代理：

医療と介護の一体的実施の中で、県栄養士会は集団アプローチをしており、その中で歯科衛生

士がオーラルフレイルについて啓発している。

P10 (第4章 分野別にみた施策の展開 2. 地域包括ケアに向けた取り組み)

訪問栄養指導について、歯科と栄養の連携がうまくいくようにしたい。

P12 (第4章 分野別にみた施策の展開 6. 災害時における歯科保健医療対策)

避難所訓練などにおいて、普段から色んな多職種が連携して災害時の訓練をしていかないと、有事の際には上手くいかないことが教訓としてある。神戸市では、訓練の際も多職種で実際に運営していく方法を盛り込んでほしい。

委員代理：

入院患者の口腔衛生、誤嚥性肺炎について、口腔機能、咀嚼機能の改善について、医科は歯科と連携を深めていきたい。

委員代理：

歯と口の健康は、「生きる」ことを支える基礎となる。子どものむし歯は減っている。歯周病は症状がでてからとなり、40歳で半分進行して多いが、本人に認識されていない。

歯周病を自発的な取り組みを支える仕組みが大事。

若い世代や学校でも機会をとらえて取り組んでいく必要がある。

会長：

- 厚労省では、最近「ライフステージ」という言葉を「ライフコース」というように使っている。ダイバーシティを尊重する意味で使われている。どっちがいいかまた定着するかわからないが、情報提供まで。
- P7 (フッ化物濃度)
来月12月に声明がでてフッ化物濃度が改訂される。5歳までが1,000ppm、6歳以降が1,500ppmとシンプルになる。

委員：

中高生の年代は、いかに本人たちに意識を持たせるか、自発的に取り組むようにさせるかがとても大事だと思う。

小学校の高学年や中高生では、学校保健委員会などの活動で、心の健康とか、お酒やたばこの害について自分たちで調べて発表するという機会があるが、その中で歯の話を聞いたことがない。学校を通じて色々な立派な冊子をもって帰ってくるが、子ども達はまったく読まずに捨ててしまうことが多い。冊子をつくることよりも、調べ学習や夏休みの課題とか、保健委員会のテーマに「若い世代の歯周病とそのリスク」といった情報提供をすることで、自分たちで調べて気付いて、何とかしないといけないと思わせるような取り組みができないか。

現在、小中学生では、一人一台タブレットが行き渡っており、それを使って勉強することがやっと習慣化されてきたため、神戸市のデータや今回のプランを簡単に分かりやすくしたものを提供すれば、自分たちで調べたりするようになると思う。

今の中高生は、美容への関心が高いため、歯のことも、歯周病について怖さがわかれば、真剣に自分事として、取り組むと思う。是非お金をかけずに自ら考えさせるということを仕掛けてもらえたらと思う。

会長：

文科省の教育指導要領では、「生き抜く世代を育てる」として、保健・体育の中で、子どもたちの気づきを促すとなっている。

議題 2. 令和 4 年度 歯科口腔保健推進関連会議等スケジュールについて

事務局より資料 2 説明

報告 1. 令和 4 年度小学校フッ化物モデル事業の取り組み

事務局より資料 3 説明

報告 2. 令和 4 年度オーラルフレイル対策について

事務局より資料 4 説明

委員：

高齢独居の男性をどう外へひっぱり出すかが課題である。利用率の 12% の男女比率も知りたい。

報告 3. 「歯科健康診査推進事業・歯周病予防に関する実証事業」モデル事業 実施報告

事務局より資料 5 説明

報告 4. いい歯の日 歯科口腔保健啓発について

事務局より資料 6 説明

報告 5. その他、情報交換等

委員：

市内の大学にも子育てひろばがある。0歳、1歳が対象になるが、歯科衛生士が、兵庫区や長田区のひろばに出向いてフッ素を行う方策もあるのではと思った。

委員：

先ほど学校で禁煙指導ができないという話があったが、できない理由があるのか？

事務局：

保健のなかで喫煙の害は勉強しており、授業でしている学校もある。

学校としても学習もしていると思う。

委員：

ぼうさい国体に参加して歯科衛生士会の作成した小冊子もらったが、とてもよくできていた。

お薬手帳と一緒に持ち出してもらおうと、避難所で有用かと思った。

委員：

健口手帳を防災用につくった。歯科衛生士会 HP よりプリントアウトできる。

委員：

妊婦歯科健診は無料なのか？

事務局：

母子健康手帳の発行時に、1回分の無料受診券を渡している。

委員：

出産後はなかなか歯医者には受診できない。今、行かないと子育てで忙しくて今後 10 年はなかなか受診できないことを伝えていってほしい。とくに一人目の妊婦さんにしっかりアドバイスし

てほしい。

委員：

P9 高齢期 関係者が取り組むこと

介護職員（ケアマネジャーやヘルパーなど）にレクチャーし、高齢者に啓発するとよいのではないか。

事務局：

今後の（仮称）「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第3次）」（案）については、懇話会の天野会長と、検討会の会長である足立委員に一任してよろしいか？

委員一同：

異議なし

事務局：

今後は、懇話会と検討会の両会長に取りまとめをお願いし、パブリックコメントに向けた最終案がまとまった段階で、委員の皆様にご覧頂く。次回は、令和5年2月ごろ開催を予定。